知的障害・発達障害のある方に対して視覚情報を活用したコミュニケーションツールの有効性と導入する上で気を付けておきたいこと

社会福祉法人　桑の実会
障害福祉サービス事業所　桑の実工房
理事長　桑園　英俊

〒807-0075
北九州市八幡西区下上津役３丁目１番26号
TEL/FAX　093-612-6045
MAIL　kuwanomi@jcom.home.ne.jp
HP　http://www.kuwanomi.org/

あなたが

相手とコミュニケーションする時に

心掛けていることは何ですか

私が心掛けていること

「まず　聞く」

「短く　分かりやすく伝える」

コミュニケーション支援（受信と発信）

1. 本人に　支援者が
   「分かりやすく」
   伝えるための支援

2. 本人が　支援者に
   自分の気持ちを
   伝えるための支援

本人に分かりやすく伝えるとは？

本人が最も分かりやすい
情報で伝える

- 聴覚（話し言葉）で伝える
- 視覚（文字・絵・写真・具体物　等）で伝える
- その他の感覚を使って伝える

本人の特性を理解する

1. 障害の有無や障害種別でなく
   まず、本人の実態と特性を理解する

本人が最も活用しやすいコミュニケーション手段は何か

- 聴覚優位
- 視覚優位
- ノンバーバル優位
- その他の優位な感覚

本人が最も分かりやすい情報を

アセスメントの重要性

- コミュニケーションに関するアセスメント
- 日常生活での観察
  - ＊話し言葉
  - ＊文字（平仮名・漢字）・絵カード・写真・動画

知的障害の特性を理解する

1. 知的障害の特性

- コミュニケーション能力に課題がある
- 短期記銘力が弱い
- 時間の概念の理解が困難
- 認知や言語等の知的機能が弱い

2. 発達障害の特性

- 社会性に障害がある
- コミュニケーションに障害がある
  - 言葉の遅れがある
  - 曖昧な指示に混乱する
  - 比喩や冗談の理解が困難
  - 非言語表現を理解が困難
- 行動の障害

発達障害児・者の不適応行動を改善する二つの視点

1. スケジュールを理解し、
   見通しを持つことができる

   ＊構造化とは分かりやすく伝えること

2. 気持ち（欲求・不快・依頼・拒否）を
   相手に伝えることができる

【引用】 2018.10　香川大学　坂井教授講演会より

知的障害の方達への視覚支援の有効性

1. 記憶のサポート
2. 時刻や時間の量を可視化
3. スケジュール・見通しの可視化
4. 手順の可視化
5. 曖昧な表現の具体化と共有
6. 気持ちや要求の表現をサポート

視覚支援の有効性①

記憶をサポートする

- 繰り返し見て確認することができる
- 短期記銘力の弱み（知的障害の特性）を補う

記憶を視覚情報で支援する

「自分の席に座ってください」

視覚支援　【記憶の保持が困難な方】

- 「自分の写真がある席に座って下さい」

視覚支援の有効性②

時間の流れを
可視化する

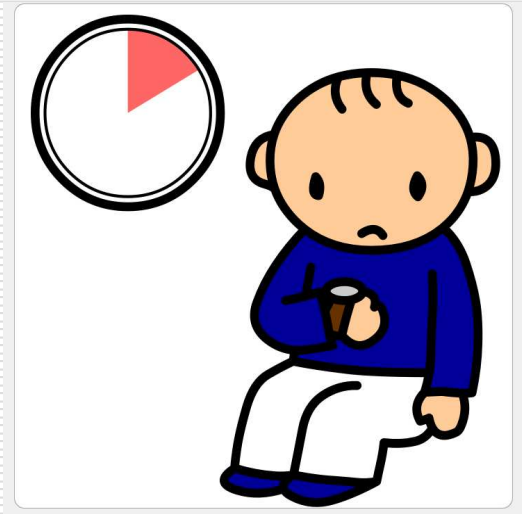
- 何時間後、明後日等、時間の概念を補う
- 目に見えない時間を量で見せる

時刻と時間を視覚情報で伝える

「ちょっと　まっとって」

- 「10時15分まで　椅子に座ってて」

http://www.sozaidas.com/index.html



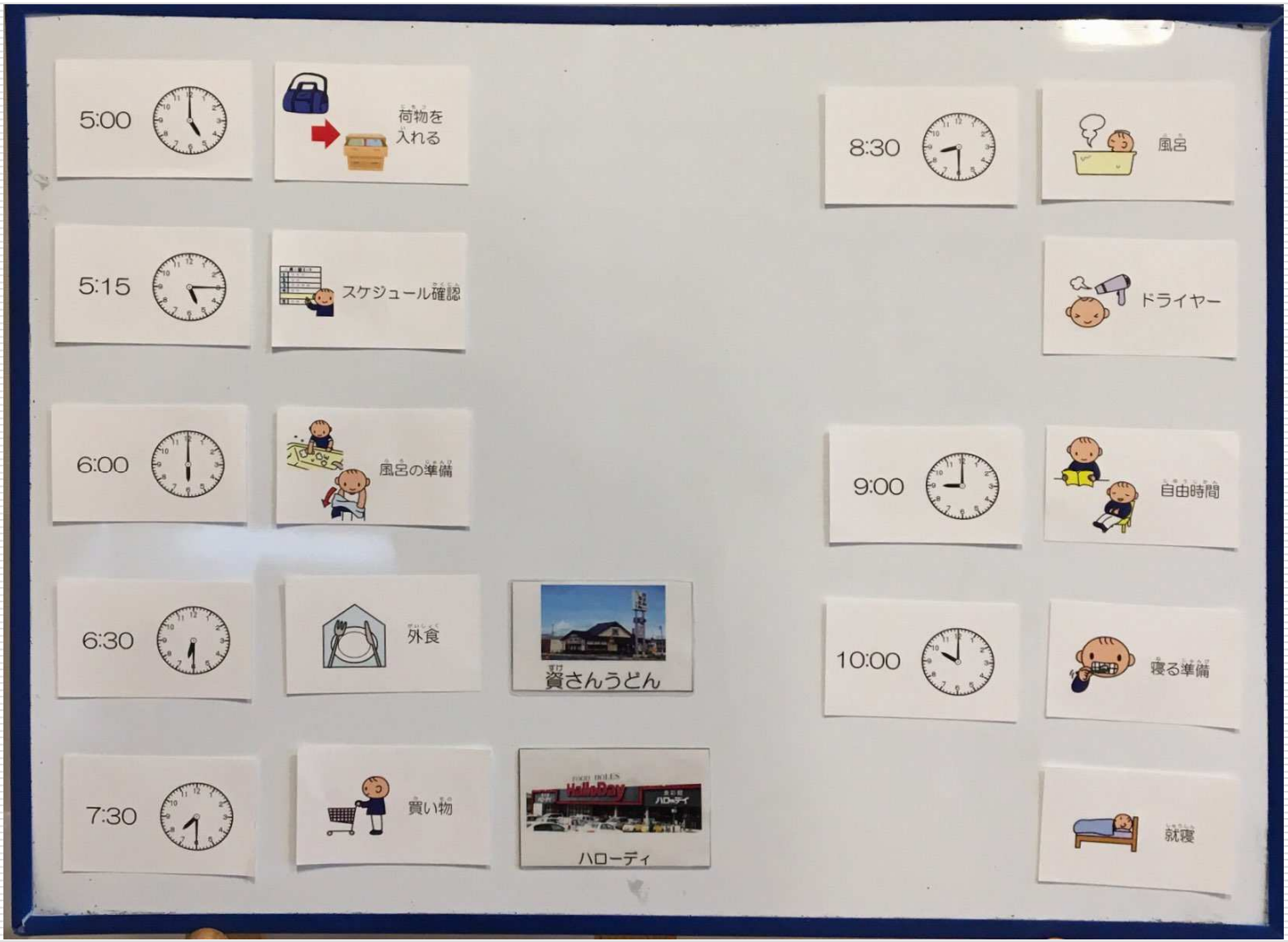
http://droplet.ddo.jp/drops/

視覚支援の有効性③

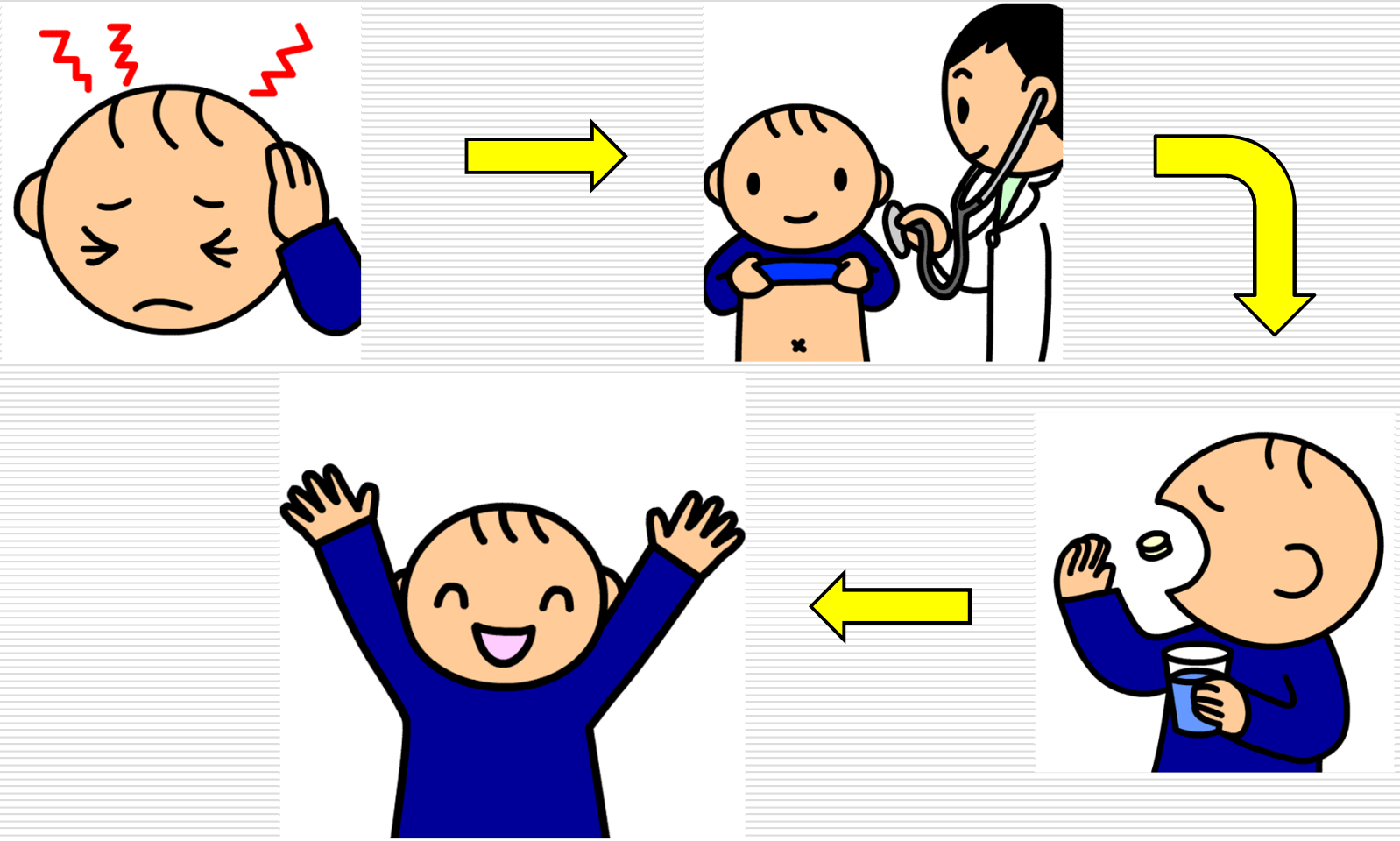
スケジュールと見通しを
可視化する

- 次の予定を具体的に捉えることができる
- 見通しを持って行動することができる
- 絵や写真は具体的でイメージを共有できる

スケジュールを視覚化する



「頭が痛かったら病院に行こう
　薬を飲んだら、きっとよくなるよ」

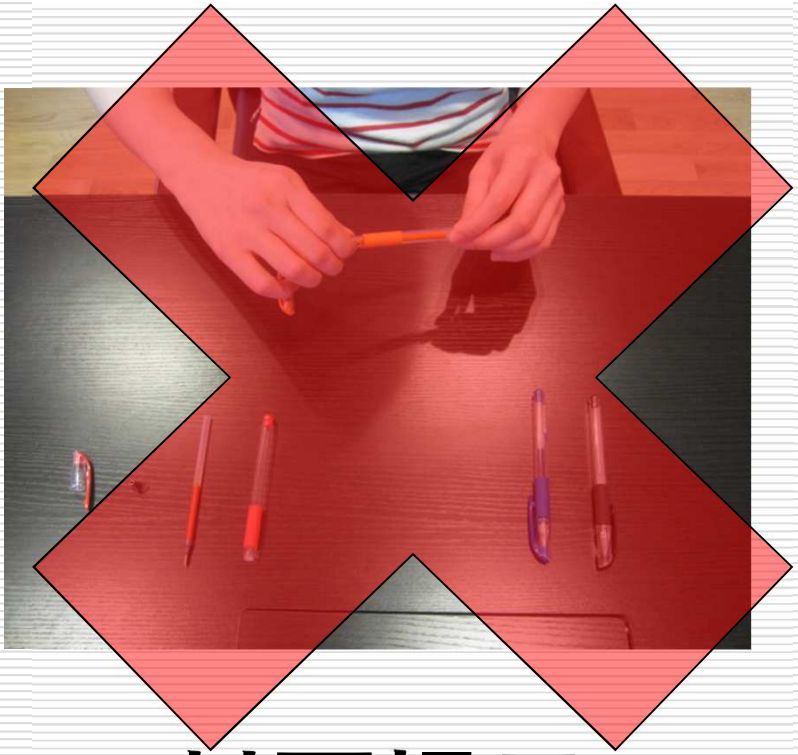


視覚支援の有効性④

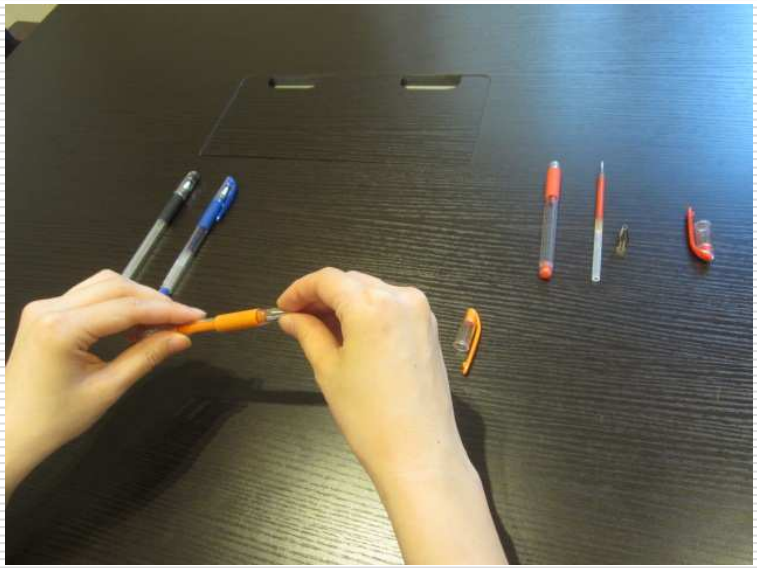
手順を視覚化する

- 説明文・図・写真等、本人がわかりやすい視覚情報で
- **動画は**、より具体的になり効果的な視覚情報

手順説明時＜提示･動画＞の留意点



対面提示



並列提示

視覚支援の有効性④

曖昧な表現を具体的にする

- お互いのイメージを共有する
- 仕上がり、最終形を明確にする

視覚支援の有効性⑤

✕ 「このへんの　草　とっとって」

- 「赤テープの中の　草を全部抜いて」

視覚支援の有効性⑤

✕ 「スリッパ　きちんと　揃えてね」

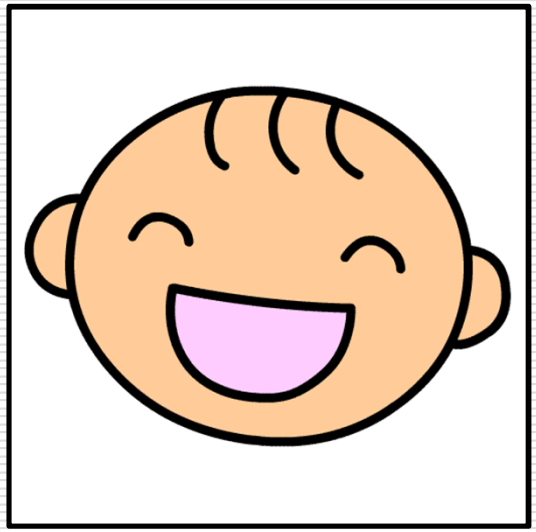
- 「写真に合わせて　スリッパを置いてね」

視覚支援の有効性⑥

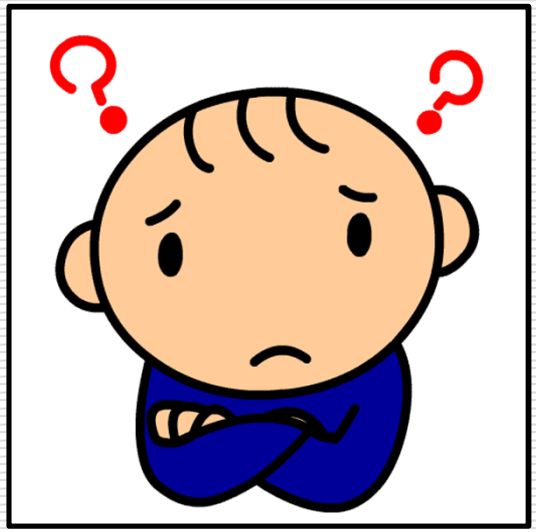
自分の気持ちを伝えることを
サポートする

- 不快＜苦しさ・きつさ・辛さ・痛み＞を伝えられる
- 欲求＜眠たい・食べたい・動きたい＞を伝えられる
- 依頼＜連れて行って・静かにさせて＞を伝えられる
- 拒否＜嫌だ・食べたくない・したくない＞を伝えられる

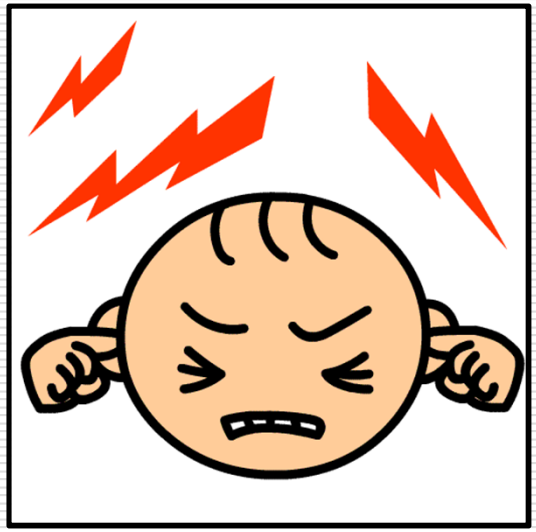
気持ちを文字や絵で伝える



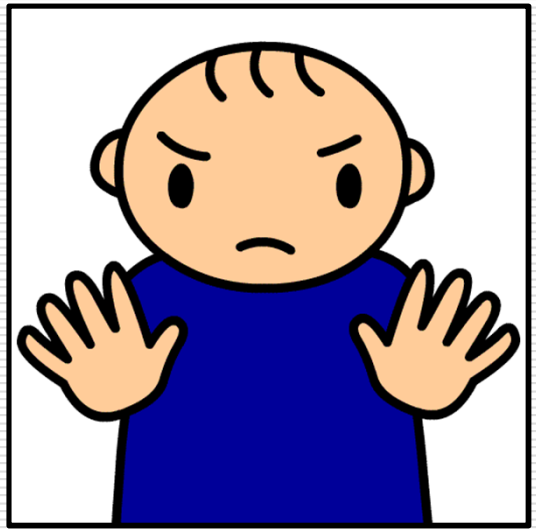
うれしい



わからない



うるさい



止めて

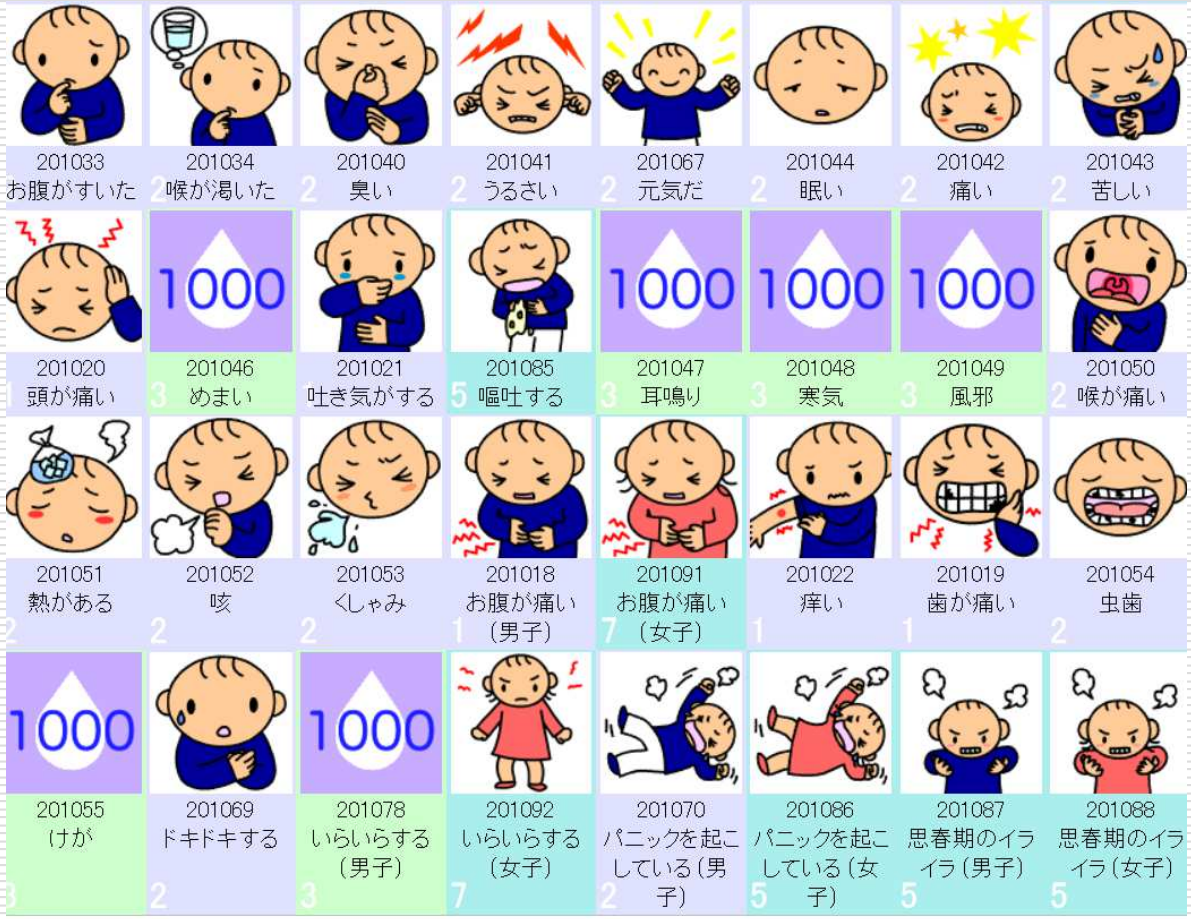
自分の気持ちを伝えるための支援

自分の気持ちを伝える
本人に合ったツールの活用

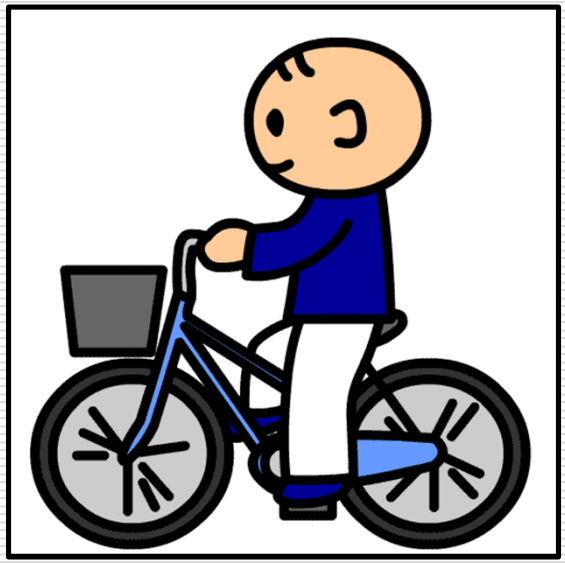
- 話し言葉だけに限定せずに、本人にあったツールの活用
  言葉・文字・絵・ドロップトーク
- IT機器の積極的活用
  スマートフォン・タブレット・PC
- YOUTUBE　＜ipad　自閉症＞

気持ちの表現をサポートするツール例

◇　ドロップス　http://droplet.ddo.jp/drops/

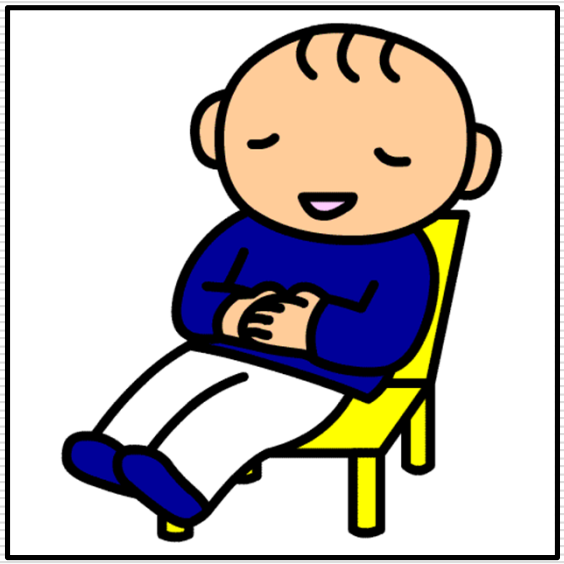


「今から何がしたい？」



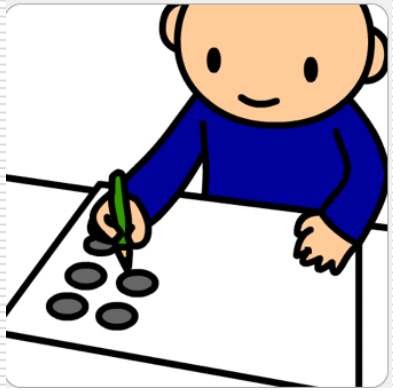
じてんしゃ

すいえい

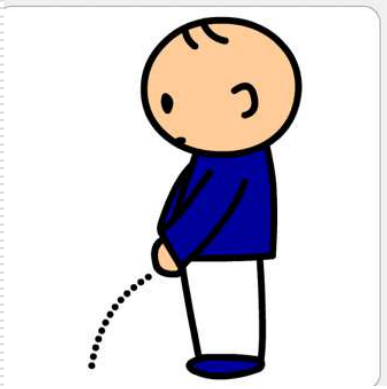


ゆっくり

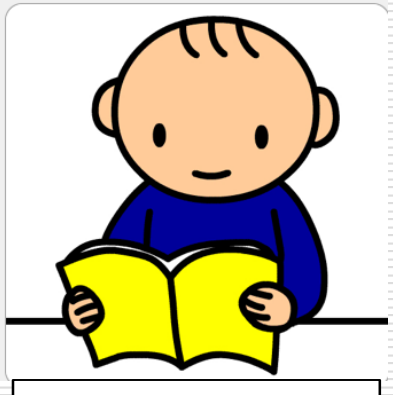
昼食後　「次は何をしようか？」



会計をする



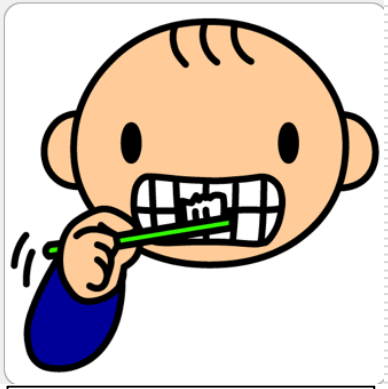
トイレに行く



本を読む

台を拭く

ｳｫｰｷﾝｸﾞをする



歯を磨く

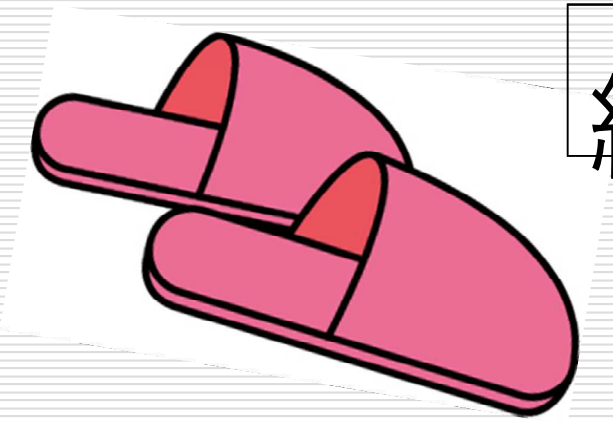
視覚支援ツール導入で気をつけておきたいこと

1. 本人が分かりやすいか、使いやすいか
2. 本人の発達段階に応じているか
3. ツールは引き継ぎ、共有されているか
4. ツールは日々更新されているか
5. 支援者は、本人の行動から評価しているか

発達段階に応じた視覚情報提示＜具象→抽象＞

実物

写真



絵

スリッパ

文字

視覚支援ツール導入で気を付けておきたいこと

支援ツールは
引き継ぐ・共有する

- 支援ツールを引き継ぐ視点
  - 既に使っている、使っていたツールがあるのでは・・
- 自宅・学校・福祉事業所・職場で同じツールを使う
- 支援者同士での情報共有

視覚支援ツール導入で気を付けておきたいこと

支援ツールは
本人のスキルアップと連動して
修正・更新する

- 支援が上手くいけば、本人の理解と表出は向上する
- 本人のスキルアップ（実態）に応じた修正・更新が必要
- 特に、選択肢が何年間も固定化されている・・見直しを

本当に「分かった？」「伝わった？」

本人の行動から
「分かった」「伝わった」を
支援者自身が評価する

- 伝えっぱなしでフィードバックしないこと・・・???
- 分かれば「本人の行動」は良い方向に変わる
- 伝われば「本人の行動」は良い方向に変わる
- **視覚支援後に行動の変化を評価し、支援を更新すること**